

## 式 辞 — 新島襄先生墓碑再建除幕式 —

松 山 義 則

学校法人同志社は、いま、心からなる祈りと、新しい思いとをもって、ここに、同志社の創立者、新島襄先生の墓碑を再建いたします。

神は、わが国に新島襄をおこし、彼をして神の国伝道と、キリスト教主義教育の御業実現のために、敬虔にして勇氣ある生涯を歩ましめられました。同志社における先生は、精悍にして倜儻不羈なる生徒たちに心をくだき、教職員、宣教師たちの間の意見の対立、人間関係のさなかにあつて苦悩の夜をかさね、また、同志社の経営と財政的基盤の形成のために、病弱の身とたたかいつつ心ある人々を訪れ、各地をたずね歩く旅の日をすごしました。

一八九〇年一月、先生は、苦難にみちたこの世の戦いを終えて天に召され、この地、若王子山頂に、生徒、教職員、卒業生たちの手によって懇ろに葬むられました。その翌年勝海舟の友情あふれる雄渾の書を美しく石面にした鞍馬石による墓碑が建立されました。そして、この墓碑は、爾来九十五年間、この山頂の風雪のなかに立って、数多くの心ある人々をむかえました。この碑は、先生を慕い思う人たちの心の支えであり、先生の人格と生涯をしのぶようすがでありました。しかし、昨夏、不慮の出来事に遭遇しましたため、今日、新しい墓碑を再建するはこびとなりました。

この新しい墓碑のために用いられました石材は、新島先生が昔、アメリカ滞在のころ、

キリスト教主義大学、同志社の創設をはじめて人々に訴えられた記念すべき土地、ラットランドで採掘されたパーモント花崗石であります。先生は、鉱物学についてはとくに造詣ふかく学識豊かな方でありました。ときに山野を跋涉し、鉱脈を求めて歩かれた先生には、なつかしく、またなじみ深い石材であると思います。

この墓碑再建に至りますまでには、長い年月にわたって数多くの熱烈な論議がかわされてまいりました。この新しい墓碑には、同志社を考える多くの人びとのそれぞれの思いがこめられていると存じます。また、この墓碑再建のために、学内外から、多くの温かいご寄附をいただきました。深い思いと愛いとももっておささげ下さいました浄財は、この墓碑のなかに永遠に生きています。また、遠くアメリカの地にあつて、つねに新島を思い、同志社に心を配られるパーモント州、ラットランドのグレイズ教会、ディーン牧師はゆかりあるパーモント花崗岩のうちから美しく堅牢なるものを選んで、同志社に送る労をとられ、さらに募金にも応じられました。心から感謝申し上げたいと存じます。また、この墓碑再建について、長い歳月にわたって数多くの石材について検討し、専門的助言をおしまれず再建作業に従事し、その完成をなすとげられました、株式会社澤吉のみなみならぬご尽力に対し謝意をあらわしたいと思います。

今日の日の墓碑再建のために心くだかれた関係者各位に深甚の感謝を申し上げますとともに、いま、新島襄先生のこの新しい墓碑の前に立って、先生の念願たるキリスト教主義教育の実現のために、われわれ同志社人が心をあわせ思いを一つにする決意を新たにしたいと存じます。

一九八七年一月十六日

(同志社総長)